

受入事業報告

1. 参加者名簿

	氏名	ボランティア活動所属団体／役職
1	André DOBRIG アンドレ・ドーブリヒ	メディア依存専門協議会／講師
2	Maylin AMANN マイリン アマン	1) 聖バーバラ・コルピング職人組合（カトリック系社会奉仕団）／青少年育成活動、理事 2) ラーンシュタイン市聖マーティン小教区／小教区内活動、青少年育成活動 3) ラインラント=プファルツ州体育協会スポーツ少年団／児童余暇活動 4) マインツ司教区青少年育成部門／若者自分探し会議ファシリテーター
3	Mark BÖING マーク・ベーイング	1) シュレスヴィヒ・ホルシュタイン州キリスト教スカウト連盟／政治教育活動部門、スカウト合宿の企画・運営 2) フーズム・スポーツ協会／柔術コーチ
4	Emmely BRANDT エメリー・ブランドト	ベルリン・ローティス後期中等教育学校（ロジスティック・観光・税務商業高校）生徒会長
5	Velvet BRAUNS ヴェルヴェット・ブラウンス	ヴォルムス=ヴォネガウ管区福音主義青年団／青少年育成・余暇活動
6	Leandro CERQUEIRA KARST レアンドロ・セスケーラ=カースト	1) フリッツ・エアラー高校／生徒会 2) ビルケンフェルト青年村議会スポークスマン 3) AFS多文化交流協会／留学プログラム担当（選考・マッチング等）
7	Marie-Theres DALESKE マリー=テレーズ・ダレスケ	[U25]ベルリン（ベルリン大司教管区カリタス連盟 25歳未満オンライン自殺予防相談）／オンライン・ピアカウンセラー
8	Lisa HEIDORN リーザ・ハイドーン	1) ワイ・エフ・ユー（YFU）ドイツ国際交流協会／広報活動 2) ユースハウス・イエーファー／青年議会活動 3) 福音主義教会青少年育成／グループリーダー
9	Norina OELSCHLÄGER ノリーナ・エールシュレーガー	1) ベルリン1901スポーツクラブ／コーチ及びコーチ補佐（ファウストボール）、親子体操等 2) ラインフェルダー学校モンテソリ小学校学童保育所／インクルーシブな青少年教育、介助
10	Kerstin PFEIFER ケアスティン・ファイファー	1) AFS多文化交流協会／コーディネーター 2) ペアゲドルフ福音主義自由教会スカウト／カブスカウト・リーダー
11	Hellen SANTANA SILVA ヘレン・サンタナ=シユヴァ	AFS多文化交流協会 バンベルク支部／受入プログラム副主任
12	Jessica Johanna SCHLOTTKE イエシカ=ヨハンナ・シュロットケ	エルムスホルン・キリスト教スカウト「アーヴァー・リーカース」団／グループリーダー、広報担当
13	Anna Julia SCHMIDT アンナ=ユリア・シュミット	福音主義教会青少年育成、ビューディンガー・ラント管区／青少年教育
14	Yasmin SCHULZ ヤスミン・シュルツ	ユースクラブ「フォアトレフリヒ」
15	Leo STIASNY レオ・シュティアスニ	AWO労働者福祉団ニュルンベルク支部／難民支援
16	Huyen VU ヒューエン・フー	社会主義青年団ファルケン、ザクセン州支部／子ども・若者の民主主義教育担当
17	Lisa Charlotta WIMBERG リーザ=シャーロットタ・ヴィムベアク	AFS多文化交流協会 ボツダム支部／派遣プログラム主任



平成29年度日独学生青年リーダー交流ドイツ団

2. 日 程

	月日	滞在地	移動手段	時間	プログラム
1	8月23日 (水)	東京	貸切バス	午前	ドイツ発→成田着 ＜オリンピック記念青少年総合センター泊＞
2	8月24日 (木)	東京		午前 午後	講義「国立青少年教育振興機構について」 講義「日本における若者の社会参画」 講師:昭和女子大学 教授 興梠 寛 氏 ＜オリンピック記念青少年総合センター泊＞
3	8月25日 (金)	東京		午前 午後	子供の貧困対策に取組む団体訪問 訪問:NPO法人豊島子どもWAKUWAKUネットワーク 合宿セミナー(自己紹介・意見交換・夕食会) 「テーマ:日独のボランティアの違い」 ※合宿セミナー=日独団員同士の2泊3日の交流 ＜オリンピック記念青少年総合センター泊＞
4	8月26日 (土)	東京		全日	合宿セミナー(意見交換・フィールドワーク) ＜オリンピック記念青少年総合センター泊＞
5	8月27日 (日)	東京		午前 午後	合宿セミナー(意見交換) 合宿セミナー(全体発表) 団ミーティング・自主研修 ＜オリンピック記念青少年総合センター泊＞
6	8月28日 (月)	東京		全日	自主研修 ＜オリンピック記念青少年総合センター泊＞
7	8月29日 (火)	東京 岩手	新幹線 貸切バス	午前 午後	宮城県へ移動(東京→宮城) 被災地支援に取組む団体訪問 訪問:気仙沼ゲストハウス“架け橋” ＜気仙沼ゲストハウス“架け橋”泊＞
8	8月30日 (水)	岩手	貸切バス	午前 午後	魚市場見学 被災地支援に取組む団体訪問の続き 岩手山交流の家へ移動(宮城→岩手) ＜岩手山交流の家泊＞
9	8月31日 (木)	岩手		午前 午後	施設ボランティアと共同ボランティア活動 施設ボランティアの取組紹介 施設ボランティアとの意見交換、小学校訪問の企画作り ＜岩手山交流の家泊＞
10	9月1日 (金)	岩手	所ノバス	午前 午後	施設ボランティアと共同ボランティア活動の続き 施設ボランティアと小学校訪問 団ミーティング・ホームステイ ＜ホームステイ＞
11	9月2日 (土)	岩手		全日	ホームステイ ＜ホームステイ＞
12	9月3日 (日)	岩手		全日	ホームステイ ホストファミリー歓送会、団ミーティング ＜岩手山交流の家泊＞
13	9月4日 (月)	岩手 宮城	貸切バス	午前 午後	学習成果発表会 「テーマ:若者の社会参画の課題と改善点～日独を比較して～」 宮城県へ移動(岩手→宮城) ＜仙台市内ホテル泊＞
14	9月5日 (火)	東京	貸切バス	午前	仙台発→成田着 成田発→ドイツ着

3. ダイジェスト

平成29年度
日独学生青年リーダー交流事業
東京プログラム
平成29年8月23日（水）～8月29日（火）



講義「若者の社会参画について」

日本の若者とボランティア活動について学習

テーマ「子供の貧困」



NPO法人豊島子どもWAKUWAKUネットワークを訪問し、貧困家庭にある子供の学習支援を行なっている学生と意見交換



団体が運営するプレーパークを見学

合宿セミナー



招聘ドイツ団と日独のボランティアの共通点・相違点とその背景について意見交換。

テーマ「被災地支援」



気仙沼ゲストハウス“架け橋”を訪問し、気仙沼市内見学、ゲストハウスを運営する若者との意見交換



語り部との交流

気仙沼復興協会において若者と海岸清掃のボランティア



岩手山青少年交流の家の法人ボランティアや滝沢市長、柳沢小学校の児童と交流しました

柳沢小学校での交流に向けて、アイデアを出し合いました



法人ボランティアとの意見交換会



法人ボランティアとのスポーツ交流会



柳沢小学校で子供たちと交流

平成29年度
日独学生青年リーダー交流事業
国立岩手山青少年交流の家
プログラム
平成29年8月30日(水)～9月4日(月)



日本滞在で感じたことを発表しました。



滝沢市長との懇談



岩手の雄大な自然の中で、たくさんの交流や文化体験をしました

野外炊事でオリジナルギョウザ作りと流しそつめんをしました



学校給食の体験



ホストファミリーとの交流会



4. 学習成果発表会

(1) 日独の共通点、相違点—子供の貧困について

日独両国で子供の貧困率はほぼ同一（日：16%、独：19%）である。一人親であることが子供の貧困のリスクとなっており、一人親世帯の子供では半数以上が貧困の状況にある（日：54%、独：60%）ことも共通である。両国において子供の自由時間に過ごす場所を提供する活動が行われており、日本での例としてはプログラムで訪問した NPO 法人がある。ドイツでも同様の活動が行われている。相違点としては、子供の貧困は日本において家庭環境に着目して理解されるが、ドイツでは社会との接点の少なさに着目して理解されている点が挙げられる。

(2) 日独の共通点、相違点—学校教育制度について

日独両国ともに義務教育制度を採用している。また、義務教育は無償であり、必要な教材等も無償で提供される。相違点としては教育行政の仕組みが挙げられる。日本では政府により教育システムは決められていて、全国で同一である。一方ドイツでは教育システムを決める権限は全国に 16 ある州政府にあり、州によって義務教育の年限が異なる。

(3) 日独の共通点、相違点—学校外での教育について

日独両国で、文化、自然、スポーツなどを学校外で学ぶ機会があり、これらは青少年に限らず、成年にも提供されている。相違点としては日本ではこのような機会が公的な機関（自治体等）によって提供されることが多いのに対して、ドイツではほとんどが任意の団体によって提供されることが挙げられる。

(4) 日独の共通点、相違点—大学での勉強について

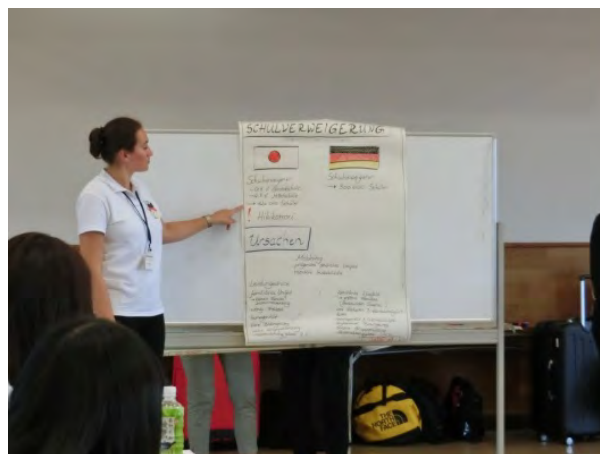
大学に関する日独両国での共通点としては、大学生の多くがアルバイトをしていることである。相違点としては、日本では多くの大学進学者が高校卒業後比較的すぐに大学に入学するのに対して、ドイツでは大学進学資格を得た後にさまざまな活動をしてから大学に入学することも多くみられることが挙げられる。また、ドイツのほうが圧倒的に多くの支給型奨学金が用意されていることも大きな相違点である。

(5) 日独の共通点、相違点—不登校について

日独両国に一定数の不登校の児童、生徒が存在し、その数は日本では 12 万人、ドイツでは 30 万人程度である。背景としていじめなどの問題が両国で共通に存在する。相違点としては、不登校について、日本では「ひきこもり」と呼ばれる精神的な問題あるいは疾患と結び付けて認知されているが、ドイツでは特に精神的な問題とは結び付けて認知されていない点が挙げられる。

(6) 学習成果をもとにした日独への提案

- ①最低賃金の上昇と育児支援金の拡充（日本への提案）
- ②一人親のフレキシブルな働きかたを可能にすること（ドイツへの提案）
- ③柔軟で利用しやすい教育システムを構築し、社会の流動性を確保（日本への提案）
- ④柔軟で利用しやすい教育システムを構築し、機会の平等を保証（ドイツへの提案）
- ⑤社会環境を学び、子どもが自ら成長できるための支援（日独両国への提案）



学習成果発表会の様子

5. 成果と課題（国際・企画課）

（1）企画について

この事業ではドイツ人参加者に、ボランティアを通して自発的に社会と関わっている若者と交流することで、日独の若者の社会参画について比較してもらいたいと考えてプログラムを構成した。とりわけ、日本社会全体が抱える課題に焦点を当て、活動を行う団体を訪問し、そこで活動する若者と意見交換をすることとした。

（2）成果

成果としては、ドイツ団が団体訪問や若者との意見交換を通して日独のボランティア活動を比較することで、帰国後に自分の活動で活かしたいと思う日本の良さを学ぶことができたことである。ボランティアの制度や社会問題への取組みだけを見るとドイツの方が進んでいるようだったが、「地域での助け合い」「おもてなしの心」などは日本で学び、ドイツのボランティア活動で取り入れていきたいとの意見があった。

もう一つの成果として挙げられるのは、日本人参加者の企画運営能力の向上である。東京プログラムの合宿セミナーにおいては、昨年度同事業に参加した日本人参加者に、事前に企画の考え方やディスカッションの進行の仕方等をレクチャーして、当日の全体進行やディスカッションのファシリテートを行ってもらった。岩手山プログラムにおいても、当機構で活動するボランティアに事前研修を実施し、ドイツ団との交流プログラムを企画運営してもらった。結果、自分たちの考えたプログラムを実行することにより、ドイツ団とより深い交流ができ、また企画運営を行う能力も養えた。今後も日本人参加者に積極的に関わってもらい、継続的な支援をしていきたい。

（3）課題

課題としては、ディスカッションの時間が十分に設けられず、ひとつひとつのテーマについて深く学ぶことができなかったことである。

今回は2週間の間に「子供の貧困」「被災地支援」「教育問題」の3つのテーマについて学べるように訪問先を選定し、加えて日本文化体験や日本人との交流なども盛り込んだ。日本社会の抱える様々な問題に触れることはできたが、ひとつひとつのテーマについてディスカッションをする時間が短くなってしまった。

今後はテーマを絞り、テーマに対して学習内容を深められるよう改善したい。

今回の企画・運営に際し、多くの方に携わっていただいたからこそ、ドイツ団にとって有意義な事業を展開することができた。プログラムに協力してくださった全ての方に感謝を申し上げる。

6. 新聞等への掲載



真。



◇…文部科学省の事業で本県を訪れているドイツの学生ら約20人は1日、滝沢市の柳沢小中（鈴木亨校長、児童生徒49人）の児童29人と交流した。写

り。5、6年生の教室はダンスフロアに早変わりし、児童と学生が陽気な音楽に合わせてステップを踏んだ。

◇…小沢珠子さん（6年）は「ドイツをいろいろ知られて楽しかった」と充実の笑顔。学校に響く元気な笑い声は世界の共通語。

岩手日報（平成29年9月2日（土）25面）

